新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第89号

§　野鳥観察の魅力を発信！　愛鳥学習会を開催しました　§

3月11日（日）に新潟県立生涯学習推進センター大研修室を会場に「愛鳥学習会」を開催しました。参加者は84名でした。3回目となる今回は「鳥の形態と生活場所について」と題して、日本野鳥の会新潟県会長の石部久氏より講演いただきました。豊富な写真をスライドで見ながら、鳥の種類ごとに特徴的な体の形をしていること、それに合った食べ物はどのようなものか、そしてどのような場所を好んで生活しているかなどを解説していただきました。具体例をいくつも知ることができ、今後、会いたい鳥を見つけるヒントを興味深く学ぶことができました。

満員御礼！

興味深いお話でした

樹幹にいる虫を採食して生活しているアカゲラやコゲラなどのキツツキ類の写真を用いて、尾羽はくさび形をしており、樹幹で体を支えやすい体の形をしていることを説明していただきました。また、キツツキが雌へのアピールで樹をつついて音を鳴らすドラミングという行為がありますが、好んでドラミングをしそうな樹を探しておくことで、見つけることができるという鳥の探し方を学びました。

また、くちばしの特徴では、冬に固い実を食べるシメという鳥と、夏に虫を食べるオオルリとでは異なる形状をしていることも学びました。その他にもたくさんの特徴を知ることができましたが、石部氏の「自分の見ている事実が大事」という言葉が印象的で、さっそく自分の目で鳥を見に出かけたい気持ちになりました。

§“着任のご挨拶”　所長　阿部　久司　§

この４月に赴任しました阿部久司と申します。初代本間所長から数えて16代目の所長になります。前任地は長岡市にある県動物愛護センターで、主に犬猫等愛玩動物・ペットの適正飼育、引取り、譲渡等動物愛護の業務をしていました。野生鳥獣については新津保健所時代に３年ほど経験しましたが、ほぼ、初心者レベルですがよろしくお願いします。

愛鳥センターは、県内の傷病鳥獣を収容・治療する施設で、県民が自然に親しみ、自然や野鳥への理解を深め、自然保護思想の普及と啓発を図る目的で、平成２年５月に開館、今年で28年目になります。これら目的達成のため、各種探鳥会や愛鳥講演会、愛鳥学習会、野鳥保護の集いなどを開催しています。

今年度の新潟県野鳥保護の集いは、６月16日、17日妻有の里・十日町市松之山で開催します。この集いは県と新潟県野鳥愛護会との共催で、地元開催自治体・十日町市、県教育委員会の後援で開催しますので、御期待ください。

また、近年、全国各地で発生している高病原性鳥インフルエンザ対応のため、愛鳥センターで発生した場合の周辺の野生鳥獣及び養鶏場等への感染拡大を防ぐための措置等を定めた、高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアルを平成30年３月に策定しました。

愛鳥センターでは、各種展示物を工夫しながら作成・展示して、皆様の御来館をお待ちしております。

§　新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）　§

2 月 18 日(日)に阿賀野市の瓢湖で「新潟県野鳥保護の集い」を開催しました。(参加者：89 名)

探鳥会

湖面の半分以上が氷に覆われ、その上で丸くなるハクチョウやカモたちの姿が多く見られました。氷が張っていない水面にはオナガガモやヒドリガモなどが集まり、周りの木に止まるまるオオタカやトビも見られました。奥の観察舎からはミコアイサの雌雄が見られ、その他タゲリやタシギなど、合計 30 種が確認できました。愛鳥モデル校の水原小学校からは児童と学校関係者が 33 名参加しました。

野鳥保護の集い

平成 29 年度野鳥写真展表彰式には入賞者 17 名のうち、8 名の方に御出席いただきました。また、会場には入賞作品を展示し、多くの参加者に御覧いただきました。

その後、新潟県野鳥愛護会の山田清副会長より探鳥会の結果報告と、1 月 14 日に行われた県内 22 か所のガンカモ類の生息調査の実施結果について報告いただきました。各地で直前の寒波や大雪に見舞われましたが、ハクチョウ類は過去最高数が記録されたとのことでした。ガン類は昨年度より少なかったようです。

休憩をはさみ、新潟県野鳥愛護会副会長の千葉晃氏より「ヒシクイ類の越冬生活」と題し、福島潟におけるオオヒシクイの越冬生活に関する報告を中心に、ヒシクイ類の分類から個体変異、性・年齢差、保護に向けてまで、幅広い視点から講演いただきました。なかでも、詳細な美しい写真とともに紹介いただいた群れの関係、個体間の関係は大変興味深いものでした。また、あまり調べられていないオオヒシクイの鳴き声は 6 種類ほどに分けられるそうで、実際の音声とともに声紋による分析結果についてもお話いただきました。

続いて、再び千葉晃氏より県内各地の冬鳥情報を紹介いただきました。この冬も阿賀町や松之山、魚沼、田上町、下越、佐渡など各地で貴重な野鳥たちが確認されたそうです。

探鳥会の様子

ヒナを拾わないで！～奇跡のカルガモ親子～

写真は、「奇跡のカルガモ親子」です。とはいっても、実は義理の親子。

先にセンターにやってきた成鳥は事故で大ケガをし、全く立てない状態で、数日後、弱々しく起立するものの、歩くことができませんでした。

続けてやってきたのは３羽のカルガモのヒナ。ヒナだけでは生きられない確率が高いので、試しにこの成鳥とヒナを同じ箱に入れてみることにしました。

成鳥は、最初は威嚇してヒナをつついたりしていましたが、数日後、体重測定のためにヒナを持ち上げると、ヒナも成鳥も緊急時に出す独特の声で鳴き合い、成鳥は私達を攻撃してヒナを守ろうとしたのです。もはや立派なお母さんです。成鳥はその後、歩けるようになりました。

梅雨冷えする６月、ヒナたちはお母さんに温められ、見守られて育ち、無事に家族で自然界に帰っていきました。しかし、これは非常に稀なケースです。時期がずれて１羽で誤認保護されたカルガモのヒナは、残念ながら二日後には冷たくなっていました。

生きる訓練中のヒナなどが誤って保護され、親鳥と引き離された場合、生きることも自然界に戻ることも、本当に困難です。よかれと思って人がしたことでも、自然界に身をおく生き物にとって最善とは言えないーこれが、私達がこの親子から学んだことです。

※ヒナは、親鳥たちが近くで見守っていることが多く、人が拾って持ち帰ることで、逆に弱って死んでしまうことが多いことから、通常、愛鳥センターでは収容を見送っています。

§傷病鳥獣の収容状況§

平成29年度　12月～3月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数	収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数
（鳥類）									アオバズク	1					1
1	キジ		2			2	0	20	トラフズク		3	2		1	0
2	マガン		2			1	1	21	コミミズク		1	1			0
3	コハクチョウ	8	28	16		9	11	22	カワセミ		1			1	0
4	オオハクチョウ	1	3	1		2	1	23	チョウゲンボウ		4	3		1	0
5	マガモ	1	4	4			1	24	ハヤブサ	1	1				2
6	カルガモ		5	2		3	0	25	ハシボソガラス	2	1			1	2
7	オナガガモ		1				1	26	ハシブトガラス		1			1	0
8	コガモ		7	1		4	2	27	ヒヨドリ		1	1			0
9	カンムリカイツブリ		1			1	0	28	ミソサザイ		1			1	0
10	キジバト	1	3			2	2	29	ムクドリ		2			2	0
11	アオバト	1	1			1	1	30	シロハラ		2	1		1	0
12	オオミズナギドリ		1			1	0	31	ツグミ		5	1		4	0
13	アオサギ		4			4	0	32	スズメ		3			3	0
	ダイサギ	1					1	33	ハクセキレイ		1			1	0
14	ヤマシギ		1			1	0	34	ウソ		1	1			0
	ウミネコ	3				2	1	35	ホオジロ		1			1	0
15	トビ	4	2	2		1	3	小計		26	102	38	0	56	34
16	オオタカ		2			2	0	（獣類）							
17	ノスリ	1	2	1		1	1	1	アブラコウモリ		1		1		0
	クマタカ	1					1	2	タヌキ		1			1	0
18	オオコノハズク		3	1		1	1	小計		0	2	0	1	1	0
19	フクロウ		1				1	合計		26	104	38	1	57	34

平成29年12月1日～平成30年3月31日までの収容数は、鳥類35種102羽、獣類2種2頭で、昨年度の同時期（鳥類48羽、獣類0頭）と比べ鳥類、獣類とも増加した。

＜特記事項＞

・ マガン ＜天然記念物＞

① 平成30年2月19日、三条市笈ヶ島地内の道路で横たわっていたところを保護され、翌日センターに収容された。
左下腿骨を骨折しており、交通事故等の衝突が原因と思われた。治療飼育に努めたが、25日に死亡した。
収容時の体重：1750g
この個体は、平成19年収容以来、9例目。

② 平成30年3月29日、新潟市東区津島屋地内の側溝で座っていたところを保護され、動物病院で治療した後、
翌日センターに収容された。右前腕骨を開放骨折しており、衝突が原因と思われた。
起立歩行可能で威嚇してくる状態なので、飼育舎へ移し治療飼育継続中。
収容時の体重：1350g
この個体は、平成19年収容以来、10例目。

飼育中のマガン

§“着任のご挨拶”　主任　南須原　大輔　§

この4月に愛鳥センターに赴任しました南須原大輔です。前任地の新発田地域振興局農業振興部では、生物に配慮した農業などを推進する環境保全型農業を担当していました。

赴任からひと月が経ち感じたことは、環境が整うことで野鳥をはじめとした動物が集まり生活するということ。日常の生活では感じることができないことを、愛鳥センターで気づかされました。

その他、事故等で怪我を負った野鳥が運ばれてきます。不慮の事故により負傷した鳥、中には人が配慮していれば怪我を防げた鳥たちもいます。

一方、野生鳥獣によって農作物が荒らされたり、人が被害を受けている問題もあり、人との共生が大きな課題になっています。

愛鳥センターでは、普及啓発として探鳥会や講演会を年間20回以上開催しています。

探鳥会では講師を招き、初心者でも理解しやすい内容で実施しています。多くの県民から野鳥の素晴らしさを知る第一歩として御参加いただければと思います。

また、愛鳥センター内では、展示室にブナ林を再現したジオラマ、トキをはじめとした多くのはく製、標本などがあります。是非、足を運んでいただき、見て、触れて体験してみてください。

県民の皆様の御来館をお待ちしております(^o^)

§12～3月の探鳥会・観察会§

12/3（日）鳥屋野潟市民探鳥会　8:30～10:30　（晴れ）
場所：鳥屋野潟公園　参加者：84名　観察種：40種【①】（にいがた野鳥の会・日本野鳥の会新潟県・新潟市 共催）

カモ類やカイツブリ類が見られ、キツツキの仲間はコゲラ、アカゲラ、アオゲラの3種が観察できました。また、ミソサザイやベニマシコなども確認することができました。

12/10（日）五十公野公園探鳥会　9:00～11:00　（曇り）
場所：五十公野公園　参加者：34名　観察種：39種【②】

たくさんのマガモやオナガガモ、ハシビロガモなどを見ながら升潟沿いを歩きました。よく探すと中にはトモエガモやミコアイサがそれぞれ一羽ずつ混じっていました。林のほうではアトリの群れや、地面でエサをついばむヤマガラ、黄色い冠羽がきれいなミヤマホオジロ、ハンノキの実を食べるマヒワの群れなどが見られました。最後はまた升潟に戻り、オカヨシガモとトモエガモのツーショットを見て締めくくりとなりました。

たくさんのカモがいました

1/28（日）足跡ウォッチング　9:00～11:00（曇り）
場所：愛鳥センター周辺　参加者：10名　観察鳥種：14種【③】（紫雲寺記念公園ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝﾊﾟｰﾄﾅｰ共催）

足跡観察中です

駐車場には早速ノウサギの足跡やハクセキレイの足跡がありました。道路の向かい側まで行くと今度はキジがうろうろする足跡がたくさん。探鳥路へ向かうと、あちらもこちらもノウサギの足跡だらけで、2頭で一緒に歩いているような跡もありました。イタチの足跡もよく見られ、他にも樹木の冬芽や野鳥を観察したりと、盛りだくさんの観察会となりました。

【観察したもの】ノウサギ足跡・フン・食痕、タヌキ足跡、イタチ足跡、ネズミ類足跡、野鳥（キジ・カラス類・ツグミ・ハクセキレイ）足跡、樹木の冬芽、ハラビロカマキリの卵など。

2/4（日）海鳥を見る会　9:00～11:00　（雪）
場所：網代浜漁港～東港　参加者：10名　観察種：24種【④】

受付時から思っていた以上に雪が降ってきて、少したじろぎましたが、いざ港へ。網代浜漁港脇の砂浜では早速ハマシギの群れとシロチドリ1羽が見られ、船着場付近ではヒドリガモやコガモの群れが見られました。雪が激しく降ったり落ち着いたりの繰り返しでしたが、歩いていく途中では派手なウミアイサ♂やハジロカイツブリなども観察できました。奥の防波堤付近では憧れのウミスズメが出現！そして、戻る途中の船着場付近では、美しいヨシガモ♂を見ることができました。

雪に負けじと海鳥を探します

3/4（日）ハクチョウを見送る会　9:00～10:50　（晴れ）

場所：お幕場大池　参加者：34名　観察種29種【⑤】

開始早々、飛び立って行くハクチョウたちが見られました。良いお天気で、飛んで行くハクチョウたちやユリカモメが青空に映えてとてもきれいでした。大池は凍結している部分もありましたが、オナガガモの雄たちが雌１羽を取り囲む様子や、ハシビロガモ、ホシハジロなどが見られました。林への散策路はまだだいぶ積雪がありましたが、東屋まで進みしばらく待っていると、カワラヒワやカシラダカが現れ、シジュウカラやホオジロはさえずりを聞くこともできました。その他、上空を舞うトビやノスリなども確認できました。

みんなで池を観察中

探鳥会の観察種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	コハクチョウ	●				●
2	オオハクチョウ					●
3	オカヨシガモ	●	●			
4	ヨシガモ				●	
5	ヒドリガモ	●			●	●
6	マガモ	●	●		●	●
7	カルガモ	●	●		●	●
8	ハシビロガモ		●		●	●
9	オナガガモ	●	●		●	●
10	トモエガモ		●			
11	コガモ	●	●		●	●
12	ホシハジロ	●	●			●
13	キンクロハジロ		●			●
14	ミコアイサ	●	●			
15	ウミアイサ				●	
16	カイツブリ	●	●			
17	カンムリカイツブリ	●			●	
18	ハジロカイツブリ	●			●	
19	キジバト	●	●	●		
20	カワウ	●	●			●
21	ウミウ				●	
22	アオサギ	●				
23	ダイサギ	●				
24	オオバン	●	●			

No.	種名	①	②	③	④	⑤
25	シロチドリ				●	
26	ハマシギ				●	
27	ユリカモメ					●
28	ウミネコ				●	
29	カモメ					●
30	セグロカモメ				●	
31	オオセグロカモメ				●	
32	ウミスズメ				●	
33	トビ	●	●		●	●
34	オオタカ					●
35	ノスリ			●		●
36	コゲラ	●	●			●
37	アカゲラ	●	●		●	
38	アオゲラ	●	●			
39	ハヤブサ	●				
40	モズ	●	●	●		
41	オナガ	●				
42	ミヤマガラス					●
43	ハシボソガラス	●	●		●	●
44	ハシブトガラス	●	●	●	●	●
45	キクイタダキ			●		
46	ヤマガラ		●			●
47	ヒガラ					●
48	シジュウカラ	●	●	●		●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
49	ヒヨドリ	●	●	●		
50	ウグイス	●	●			
51	エナガ		●			●
52	メジロ	●		●		
53	ミソサザイ	●	●			
54	ムクドリ	●	●	●	●	
55	シロハラ			●		
56	ツグミ	●		●	●	●
57	ジョウビタキ		●	●		
58	スズメ	●	●			●
59	ハクセキレイ	●	●	●	●	
60	セグロセキレイ		●			
61	アトリ		●			
62	カワラヒワ	●				●
63	マヒワ		●			
64	ベニマシコ	●				
65	ウソ		●			
66	ホオジロ	●	●			●
67	カシラダカ		●			●
68	ミヤマホオジロ		●			
69	アオジ	●	●	●		
70	オオジュリン	●				
	計	40	39	14	24	29

～愛鳥ブログより～

ただ今、愛鳥センターのホームページではブログを掲載中です。
公園の野鳥や自然にまつわることなど日々の情報をお知らせしています。
ここでは冬の記事の一部を紹介します！

2018年2月27日

北上するハクチョウやガンが見られるようになってきました。愛鳥センター探鳥路では、2017年10月末に数十羽の来訪があったイスカが、またやって来ています。体力つけなくちゃ、とばかりに、マツの実をむしりとって威勢良く食べている姿が見られました。

真っ赤なイスカのオス

2018年3月31日

今週初め頃から、探鳥路では10～20羽のヒレンジャクが見られます。どうやら赤いヤブコウジの実を食べているようです。木の上でボーッと休んでいると思ったら、サーッと地面に降りて実をついばんだりしています。

ヒレンジャク

§　平成29年度野鳥写真展　§

平成29年度野鳥写真展は48名の方から184点の応募があり、初めて応募された方は16名でした。

3年連続で金賞を受賞した安野邦夫氏の作品は、「同時に写ることのあまりない2種の出会いの瞬間を良く捉えた作品である。シャッターチャンスを活かしており、動と静が上手く収められている。構図が深く、2羽の距離間を捉える技術力が素晴らしい。鳥の色合いも良く出ていて、画面に品がある。」と高く評価されました。

また、全体的な評価として、「野外によく出掛けてよく観察をし、鳥を見る目や自然観察の目が良くなってきているのを感じる。カメラの性能が良くなってきたこともあるのか、飛翔などの瞬間を撮影した写真が多く、表情までもよく捉えている。また、コントラストが強い写真も多かった。」とのことでした。

金賞：安野邦夫氏
「びっくりしたなー
（ｵｵﾀｶ若、ｹｱｼﾉｽﾘ）」

銀賞：金子俊彦 氏
「イヌワシ」

銀賞：山崎悦子氏
「エナガ」

平成29年度野鳥写真展入賞者一覧

賞	タイトル（鳥名）	作者氏名	撮影場所（時期）
金賞	びっくりしたなー（ｵｵﾀｶ若、ｹｱｼﾉｽﾘ）	安野　邦夫	北蒲（3月）
銀賞	イヌワシ	金子　俊彦	中頸（9月）
	エナガ	山崎　悦子	西蒲・新潟（9月）
銅賞	ヒンカラカーン（コマドリ）	阿部　繁	西蒲・新潟（4月）
	オオルリ♀	小沢　栄一	西蒲・新潟（5月）
	新緑とキビタキ	熊倉　笙太	西蒲・新潟（4月）
特別賞	桜と綱引き、よ～い・ドン（エナガ）	小柳　淳	西蒲・新潟（3月）
佳作	ぶりっこ（ノスリ）	安野　恵津子	北蒲（12月）
	おかあさんと一緒（カルガモ）	小柳　孝	西蒲・新潟（5月）
	ごちそう（メジロ）	酒井　邦夫	北蒲（4月）
	ビロードキンクロ	桜井　和宏	三島（2月）
	しっかり見張るぞ！（アオバズク）	鹿間　有紗	北蒲（6月）
	チゴモズ	船木　強	西蒲・新潟（5月）
	サギ（ダイサギ）	丸山　重雄	西蒲・新潟（5月）
	彩り（オシドリ）	山崎　勝明	北蒲（10月）
	仲良し（アトリ）	山本　由香里	西蒲・新潟（11月）
	クロツラヘラサギ	渡辺　昭子	佐渡（6月）

◆　12～3月の利用者数

月	12月	1月	2月	3月	計	累計
来館者数	235	194	223	693	1,345	610,165

館内設置のトキ募金箱の報告

平成30年1月～平成30年4月 **1,657 円**
累計**２８６，５３７円**
みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前9時～午後4時
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

9月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・三光鳥を聞く会（新発田市剣龍峡集合）
6/ 10（日）6:30～9:00
・シギ・チドリ観察会（聖籠町海のにぎわい館集合）
8/26（日）9:00～11:00
・タカの渡りを見る会（新発田市加治川地区公民館集合）
9/23（日）9:30～11:30

観察会ほか
・工作教室（愛鳥センター集合）
7/29（日） 13:30～15:30　定員20名
※7/22（日）までに愛鳥センターへ
お申込みください。
・巣箱作り教室（愛鳥センター集合）
第1回8/19（日） 13:30～16:00　定員8組
第2回8/25（土） 13:30～16:00　定員8組
※第1回は8/12（日）までに
第2回は8/19（日）までに
愛鳥センターへお申込みください。
・マツムシの声を楽しむ会（愛鳥センター集合）
9/ 1（土） 18:00～20:00

特別展
・夏季特別展（愛鳥センター2階）
7/14（土）～9/17（月・祝）
・愛鳥ポスター展（愛鳥センター2階）
9/29（土）～10/28（日）